松ぼっくり

2011年　秋号

國松石材株式会社
発行所／国松石材株式会社
創業地　福岡市博多区下呉服町8-35
平尾店　福岡市中央区平和3-12-27（平尾霊園下）
TEL 092-401-4194／FAX 092-401-4189
工場　福岡市東区松田3-16-12
TEL 092-629-1189／FAX 092-629-2043
ホームページ　http://www.kunimatu.com

携帯電話のバーコード読取り機能で「この図」→を撮影すると、携帯版ホームページ内の会社概要から、地図をご覧頂くことができます。

博多の音源　筑前琵琶

音楽は、人を楽しませ、勇気づけ、癒しをあたえてくれる。そんな不思議なチカラをもっています。

これから紹介する筑前琵琶もきっとたくさんの人を魅了してきたことでしょう。

福岡市南区高宮。西鉄天神大牟田線・西鉄平尾駅から南に約五百メートル、閑静な住宅街の一角に、筑前琵琶の源となった地があります。

天台宗のお寺、※①『臨江山（りんこうざん）成就院（じょうじゅいん）』。本堂の手前に、「歌碑」と「筑前琵琶のながれ」を刻んだ碑が建っています。

【歌碑】



→俳句は河野静雲作「妙音をかしこまり　きく百千鳥」。琵琶絵は萱島秀峰作。（平成二年中村旭園さん建立）



→筑前琵琶の歴史は、奈良時代末期ごろからはじまり、現在に至ります。（同平成二年建立）

【筑前琵琶のながれ】

筑前琵琶の起源は約千三百年ほど前（奈良時代末期～平安時代初期ごろ）、※②盲僧琵琶にさかのぼります。

御笠郡四王寺坂本（現太宰府市坂本）に橘玄清（たちばなげんせい）（玄清法印）という盲僧がいて、琵琶を弾じながら読経をして災厄を払っていました。

延暦四年（七八五年）天台宗開祖・伝教大師最澄は、比叡山延暦寺根本中堂の開基にあたり、玄清を招き、毒蛇退治を依頼します。玄清は、琵琶を奏でて経を誦し、毒蛇を退散させました。桓武天皇はその功績をたたえ、「法印」の号を与えました。

三年後に帰国した玄清法印は、成就院を建立し、筑前盲僧の本山とし、同流の僧を集めて琵琶を教えました。主に彼らはカマドの神様である荒神（こうじん）様を鎮め、家内安全や五穀豊穣、商売繁盛を祈るためにお経を上げ、余興として「くずれ」と呼ばれる語りを弾奏しました。そのため盲僧琵琶は荒神琵琶とも云われ、これが今に至る筑前琵琶の源流となっています。



↑カマドの荒神様



←筑前琵琶の源流となった盲僧琵琶（荒神琵琶）は、現在でもお経の伴奏として奏じられています。（天台宗　臨江山　成就院　梶谷隆幸ご住職）

時を経て明治時代になってからも、彼らの荒神払いとくずれの演奏は続きましたが、こうした琵琶法師の中から、筑前琵琶の創始者が誕生しました。

※現・冷泉地区その人物は博多赤間の一丸智定（いちまるちじょう）（成就院の僧侶、盲目ではない・後の橘旭翁（たちばなきょくおう））。彼は筑前琵琶と同じく盲僧琵琶から派生した※③薩摩琵琶を学び、また三味線音楽の要素を取り入れ、明治四十三年には、音域をより豊かにするため四弦から五弦へと改良し、芸能としての筑前琵琶を確立しました。

そして金子堅太郎（明治期の官僚・政治家）や頭山満（玄洋社の総帥）など福岡出身の財政界要人の後援を受け、智定以外にも吉田竹子や鶴崎賢定（けんじょう）らの名手が続々と誕生。筑前琵琶は、大正時代に黄金期を迎え、財政界の大物の前や、皇后、皇太子の御前演奏に召さ

れるなど、その勢いは他の芸能を圧倒しました。

自信をつけた智定は明治四十二年（一九〇一年）に橘旭翁を名乗り、橘流[※4]の家元になりました。そして門弟の育成など精力的に活動を続けました。

明治中期から昭和初期にかけて全国的にブームを起こした筑前琵琶。最も盛り上がったのはもちろん発祥の地である福岡で、最盛期には毎月、川丈座[※5]、相生座などで演奏会が開かれていたそうです。男子学生たちも若い女性演奏家に熱をあげ、舞台の前に陣取って聞きほれたといいます。筑前琵琶師は、今でいうアイドルそのものでした。

今日まで筑前琵琶の伝統は脈々と受け継がれており、若い後進の指導も熱心に続けられています。また、全国各地での演奏会も開かれています。

これから深まりゆく秋、芸術の秋。かつて一世を風靡した芸能、筑前琵琶の神秘的な音色を感じてみませんか。

臨江山　成就院梶谷隆幸（りゅうこう）ご住職、お忙しい中、取材ご協力と琵琶の演奏ありがとうございました。

▼第五十九回筑前琵琶鑑賞会のご案内
日時：平成二十三年九月二十五日（日）十四時開演／場所：アクロス福岡円形ホール／主催：筑前琵琶福岡旭会
※≪先着順でペア五組様に鑑賞会のチケットをプレゼントいたします。ご希望の際は、担当：小田までお問い合わせください≫

【注釈】

①はじめは四王寺坂本（現太宰府市坂本）に草庵が建てられ、明治四十年に高宮の地に移転され、天台宗別格本山として現在に至る。また、筑前西国三十三ヶ所第五番札所でもある。

②盲目の僧侶がお経を唱えるのに伴奏する琵琶。

③安土桃山時代に薩摩藩 島津忠良が、武士の士気を養うため、教訓的内容の歌伴奏に薩摩盲僧琵琶を使ったのが根源。勇猛豪壮な演奏。対する筑前琵琶は、一般庶民にも親しみやすいよう軟らかい音色で、曲風も穏やか。

④現在、筑前琵琶は橘流の「旭会」「橘会」があり、福岡には、福岡旭会が存在する。会長を務めているのは、中村旭園さんで、後継者の育成とともに国内はもとより海外各地での演奏会活動にも力を注いでこられる。平成七年（一九九五年）には文部大臣賞、平成九年（一九九七年）には勲五等瑞宝章を受けた、筑前琵琶会の重鎮。

⑤明治三十年代に中洲に開業した劇場。



↑筑前西国三十三ヵ所第五番札所観音堂

あとがき

――――――――――――――――

めったに触れることのできない琵琶という楽器。この記事を担当したことで、初めて琵琶という楽器を拝見させていただき、また演奏まで拝聴することができ、貴重な時間を過ごさせていただきました。――〈お客様係：小田明子〉



第6回 松ぼっくり初夏のハイキングのご報告



五月二十一日（土）に開催された「第六回松ぼっくり初夏のハイキング」のご報告をいたします。今回は、お客様三十八名、弊社二名、㈱シェルパ（山の案内人）二名の総勢四十二名で、九重連山の一角にある猟師岳（千四百二十三メートル）に挑戦しました。

私は初めて参加させていただいたのですが、準備運動を終えゆっくり歩き出し、一時間ほどで頂上に到着することができました。

新緑美しい山道の途中では、久しぶりにお会いすることができたお客様との会話を楽しみながら、ウグイスの声も飛び込んできたりして、とても爽快でした。集合写真の送付も喜んでいただけて、本当によかったです。ぜひ次回も皆様お元気でご参加ください。

――〈営業部主任：松井篤（あつし）〉

お便り紹介

どど～ん!!!　一つ一つ拝読しながら抽選箱へ…。



このコーナーは、皆様からお寄せいただいた大切なお便りの一部を、ご紹介させていただくコーナーです。

◆お忘れなく連絡を有難う。御蔭様で卒寿を迎えました。／福岡市東区

◇卒寿…九十才！こちらこそ、たいへん喜ばしいお便りをありがとうございます。

◆雑草に悩んでおります。何か解決の方法をお願いします。／福岡市西区

◇土間の部分を石張りや玉砂利に替えたり、固まるタイプの真砂土をお勧めしたりしています。一度ご相談くださいませ。

◆川柳三句中一句ご紹介／福岡市東区

「お彼岸に　お墓の前で　長話」

◇気候も良い頃です。なるたけ良いご報告でありますように。〈設計課：山室牧子〉

ごあいさつ：この度、災害復旧が困難である東北の石材店の応援要請を受け、全国の優良石材店約300社で構成する墓石業者の全国組織『一般社団法人全国優良石材店の会』（略称：全優石）の呼び掛けのもと、国松石材から志願者を3名選抜し「東日本大震災お墓修復支援隊」として被災地へ向かうことになりました。それに伴う一時的な人員及び機材の不足等により、皆さまへご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、最善を努めてまいりますので、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

今、僕たち石屋にしかできないこと。
一件でも多く復旧して帰ってきます。

～　宮城県東松島市　被災墓地の修復支援へ　～

修復支援人員派遣期間：9月9日～9月19日



工務部部長
宇津宮豊胤（45）

同じ石屋として日本人としてお手伝いしたい。親切の押し売りにならないよう、裏方として少しでも力になりたいと思います。



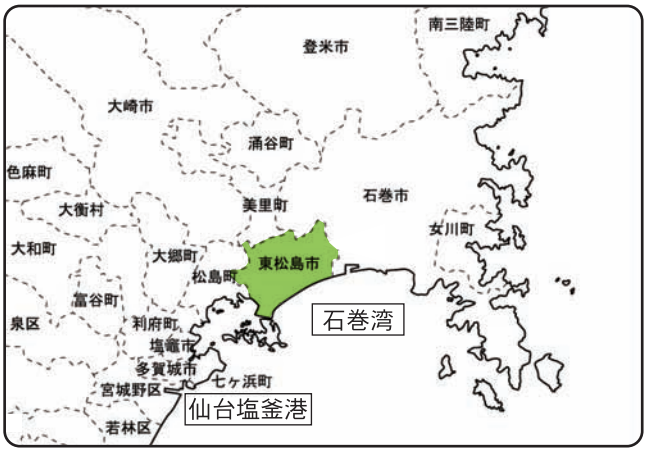
工務部工事課
高村浩生（28）

日ごろの仕事の延長上の作業で人を助けられる。自分自身の仕事としてだけでなく、人間的なレベルアップをはかりたいです。



工務部工事課
國松太朗（29）

東北でお墓が流されている映像を見たときから、「修復したい」と思っていました。



第9回「松ぼっくり杯」春のゴルフコンペのご報告



平成23年4月20日水曜日、糸島市にあるザ・クイーンズヒルゴルフクラブにて、第9回松ぼっくり杯ゴルフコンペが開催されました。美しく晴れ渡った空の下、緑のコースに降り立ったのは5組20名の皆さま。18ホールをプレイし、ハンデの計算はダブルペリア方式としました。結果は以下の通りです。次回のご参加もお待ちしております！

成績表	お名前	アウト	イン	グロス	ネット
優　勝	神野幸樹　様	49	45	94	71.2
順優勝	小西　要　様	42	43	85	71.8
3位	古川忠治　様	53	44	97	71.8
4位	石橋博典　様	43	42	85	73.0

国松今コレ #01

「国松」で「今」こっそり楽しんでいる人物館「コレ」クション

本紙『筆文字アート』コーナーでお馴染の製品課文字担当：橋口由佳さんが、この度こっそりと自費制作本を作っていました。嬉しはずかしそうです。もしもご興味をお持ちの方があれば、お便りくださいませ。喜びます。



①実は最近



②書と写真の本を



③自費制作しちゃいました！

お墓づくりに不安を感じているすべての方へ

第1回

本当のお墓を伝えるセミナー

参加無料

講師：小畠宏允氏

お墓の本質とはなにか？

生前にたてるお墓ってどんなお墓？

先祖供養ってなに？

よいお墓ってあるの？…

お墓研究の第一人者



小畠　宏允　Hironobu Obata

略歴／1945年福岡県生まれ。龍谷大学博士課程修了。著書に『日本人のお墓』『日本人とお墓シリーズ全16巻』ほか、学術論文、随筆など。石文化研究所所長。お墓「十人の会」代表。NPO法人柳田國男先祖の話を読む会理事長。

受講者の声　7月31日に熊本で九州初の小畠先生の講演会に参加してきました。昔はお祖父ちゃん・お祖母ちゃんが自然にお墓参りや先祖供養を伝えてくれていたことをわかりやすく講演していたので納得できました。

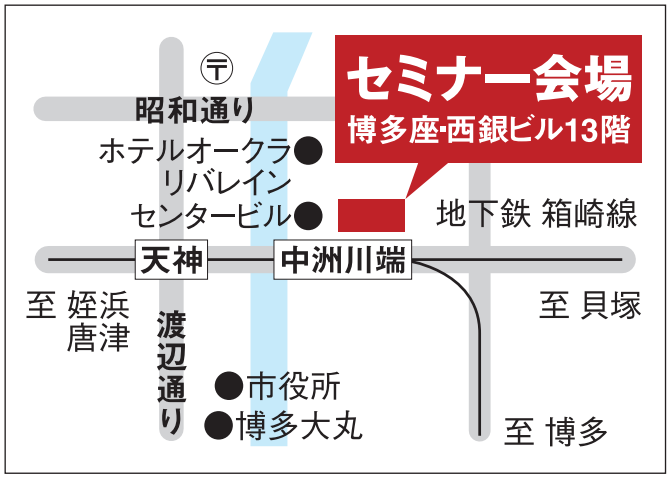
福岡で初めての講演です

日時　9月25日(日)　13:00〜15:00（開場 12:30）

場所　博多座・西銀ビル イーストサイトオフィス13階　第2会議室
福岡市博多区下川端町2番1号

定員　先着50名　参加無料
満席になり次第締め切りますのでお早めにお問い合わせください。

申し込み　電話・Eメールで、住所、氏名、年齢、電話番号、参加人数をご記入の上、下記へお申し込み下さい。聴講券をお送りします。



- 地下鉄「中洲川端駅」7番出口上がってすぐ
- 西鉄バス「川端町」　●JR博多駅から地下鉄で5分
- 西鉄福岡（天神）駅から地下鉄で2分

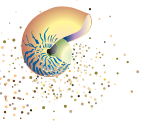
「本当のお墓を伝えるセミナー」お申し込みは

お申し込みは今すぐ
FreeDial 0120-245400　営業時間／9:00〜17:00
担当／森、古川
■Eメール：info@kunimatu.com

創業享保二年　国松石材株式会社
福岡市中央区平和3丁目12-27
「本当のお墓を伝える研究会」係

町名散歩

第二十一回 能古島



―つきせぬ波のざわめく声に
今夜は眠れそうにない
浜辺に降りて裸足になれば
とどかぬ波のもどかしさ―――

島の案内所で販売されているこの曲のCD。作者は福岡県出身の歌手＝井上陽水（よう・すい）さん。曲名は『能古島の片想い』。昭和四十四年（一九六九年）島内で開催された音楽祭「能古島フォークキャンプ」に出演した駆け出しの頃の陽水さんが、島の港を出て行く船を眺めながら作ったといわれる瑞々しい曲です。

春は菜の花、秋はコスモス。どこかノスタルジックなこの島の住所は福岡市西区。博多湾の中央にこんもりと浮かびます。さあ秋の潮風に乗って、いざ出航いたしましょう。

古くは「残」「能許」「能挙」「野古」とも記載されるこの地は、神功皇后が海神（わたつみ）＝住吉大神を残した島なので残島（のこのしま）とし、白髭（しらひげ）神社に祀ります。初めて文献に登場したのは『平安遺文（いぶん）』。天平三年（七三一年）頃の住吉神社の社領を記述した文中に「能護嶋」と記されています。古代の群制では早良郡に属し、奈良時代には島北端にある〝也良崎（やらのさき）〟に防人（※さきもり）が置かれました。近世初頭には筑前五ヶ浦廻船の根拠地の一つとして繁栄し、江戸時代には黒田藩の鹿狩りの場、明治維新後は漁港と棚田の島へと変貌を遂げます。

昭和十六年（一九四一年）福岡市西区に編入以降は、四季折々の花々とヤギやウサギがお出迎えしてくれるアイランドパーク（昭和四十四年開園）や、キャンプ場、海水浴場、能古博物館や※西島伊三雄さんの童画美術館、檀一雄文学碑などなど見どころが盛り沢山。行楽シーズンになると、西区姪浜にある能古渡船場周辺は大渋滞です。

フェリー船「フラワーのこ」（片道十分／二百二十円）ではなく、水上タクシー（片道五百円）を選んで乗り込んでみます。フェリーを追い抜き五分で到着できました。早速〝のこの市（いち）〟の〝のこバーガー〟や〝のこ磯〟で島の幸を堪能した後、アイランドパーク行きのバス（片道二百二十円）に飛び乗り、竹馬を借りて腹ごなし。極みは海と福岡市街地を見下ろす丘に貸しゴザを敷いて一寝入り。

夕日射すフェリーで帰る頃…この郷愁がこの島最大の魅力かもしれません。

▼防人とは、主に東国から北部九州へ派遣されてきた辺境警備の兵士達で、その切ない望郷の和歌が、多く万葉集に残されました。／▼このしまアイランドパーク：先着ペア五組様に入園券をプレゼント！同封の返信ハガキにご希望の旨を一言お書き添え下さい。通常入園料大人千円、小中学生五百円、三歳以上三百円／▼名誉市民＝西島伊三雄さんの没後十周年記念『昭和「あの頃」展』が九月十五日から下川端にあるアジア美術館にて公開されます。二十七日まで。／▼天神中央公園発の水上バス「花天神」（片道三十分／千三百円）が、今年三月から土日祝日限定で運航しています。

あとがき―夏が過ぎ風あざみ。小さな頃の記憶が甦ります。

竹馬中

〈設計課：山室牧子〉

知識の泉 札所

札所と聞いて思い浮かべるのは、四国八十八ヶ所ではないでしょうか。

中世桃山時代頃までの巡礼者はお寺に参る際に、金属や木で出来た札を、釘で山門やお堂に打ち付けたそうです。

このことから、巡礼することを『打つ』といい、お寺を『札所』と呼ぶようになりました。

そしていつからか納める風習が転じて、逆に自らが持参した集印帖（じょう）に寺名や朱印を捺（お）してもらい、参拝の証とするようになりました。

現在、木札を打ち付ける習慣はなくなりましたが、縦十六～十七センチ、横五センチぐらいの『納札（おさめふだ）』※（のうさつ）と呼ぶ紙の札を、本堂や大師堂の『納札箱』に納めます。この札には住所、氏名、年齢、祈願を記入します。

この納札はお接待を頂いた際に差し上げることもあります。八十八ヶ所巡礼で知られる四国などでは、お遍路さん同士で親しくなり、名刺がわりに交換して、後日連絡を取り合うこともあるそうです。

八十八という数については、今から約千二百年前、弘法大師が人々の災難を除くため四国に開いた霊場の数で、後に大師の高弟がその足跡を遍歴したのが霊場巡礼の始まりとされます。

一方、三十三という数については、「観世音菩薩は、あまねく衆生を救うため、相手に応じて三十三の姿に変わる」と説く法華経観世音菩薩普門品第二十五（観音経）に由来します。

ここで、札所でのお参り方法をご紹介いたしましょう。

①山門で一礼
②手洗いで口をすすぎ、身を清める
③鐘楼堂で鐘を撞く
④本堂で納札、写経等を納める
⑤お賽銭・お供え等を供える
⑥ローソク・線香を焚く
⑦お経をあげる
⑧納経所で希望に応じて納経軸・納経帳・白衣などに納経を受ける
⑨山門で一礼して、次の札所へ

福岡市南区高宮にある筑前琵琶ゆかりの成就院は、筑前西国三十三ヶ所観音霊場の第五番札所で、聖観音さんが鎮座されています。ちなみに一番は大乗寺（鎮国寺合祀）に始まり、三十三番、太宰府市の勧世音寺に終わります。

秋の紅葉狩りに、福岡県内のお札所巡りはいかがでしょうか。

あとがき―――――――――――――――
いつかは四国でお遍路さんをと思っていたので、このたび気持ちが一層強まりました。――〈お客さま係：高田美穂〉

筆遊アート
～fudemoji-art～

●ご覧の実物葉書を抽選で１名様にプレゼントいたします。
返信用ハガキにご希望の旨をお書き添え下さい。
（作品の転用・転売はお断り申し上げます。）

●家名・お好きな言葉を揮毫（きごう）して墓石や石碑に彫刻しております。ご用命の際は、担当のお客様係までご相談ください。

作品＃006　　『生』



皆さんは、東北地方太平洋沖地震によって何を感じ考えましたか。私は、今ある命、何気ない普段の生活がとても有難いことだと改めて感じました。この気持ちを決して忘れたくありません。私には 18 歳位の頃から常に意識していることがあります。「今ここに生かされている」ということです。そう考えると自分も他人のことも、時間や物も大切に思えてくるのです。今できることを精一杯やろうというパワーが湧いてきます。そのパワーを「生」の一文字に吹き込みました。

せっかくこの世に生まれてきたんです。今生きていることに感謝し、命ある限りその命を全うさせたいですよね。我々は人として「生まれ」「生きる」のです。一度きりの人生、力強く生きていきましょう。

＜製品課文字担当：橋口由佳＞



9/23(金/秋分の日)・24(土)・25(日)の3日間

秋のお彼岸感謝祭

営業時間 9：00～17：00 定休日無し

会場：国松石材平尾店前　駐車場（屋内トイレ有）



第7回 松ぼっくり秋もハイキング！のお誘い

目的地：九重 扇ヶ鼻（1.698M）

ご要望多数につき、毎年皆さまにご好評いただいております春の恒例松ぼっくりハイキングを、秋にも開催させていただくことになりました！！！
扇ヶ鼻は九重連山の一角で、時期が合えば見事な紅葉がみられます。

開 催 日：平成 23 年 11 月 5 日（土）

コ ー ス：JR 博多駅筑紫口～扇ヶ鼻～三愛高原ホテル～ JR 博多駅筑紫口
（午前 8：00 ／ 午後 6：00）

歩行時間：往復 2 時間半（途中昼食が入ります）傾斜は緩やかで少し歩くコース

参 加 費：4,000 円（税込）※昼食弁当付、温泉入浴料、バス代、ガイド代込み

募集人員：38 名（※定員に達し次第締め切らせて頂きます）

お申込み：同封の葉書にてお申し込み下さい。
※参加人数と連絡がつくお電話番号を必ずお知らせ願います。

締め切り：平成 23 年 10 月 15 日（土）必着

先着順ですので、お早目のお申し込みをお勧めいたします。
お友達、ご夫婦お誘いの上、ふるってご参加下さい。
防寒対策をお忘れなく！



お問合せ：0120-245400　担当：高田美穂 / 中西和磨

プレゼント当選者発表

厳正なる抽選の結果、次の方々が当選されました。

①商品券5,000円分
戸部田浩一様、他３名様
②呉昌碩「臨石鼓文」（本）
廣橋　勲様
③「ブッダ」映画ペア鑑賞券
木村マサ子様、他９組様
④蒸気屋特選詰合せお菓子
加藤純造様、他４名様
⑤N700系さくらマグネットセット
大塚丸喜様、他９名様
⑥N700系さくら箸一膳
川村栄誉様、他４名様
⑦書作品＃005『ありがとう』
石田勝美様

お墓でのお悩みやご相談ごと、新聞の感想など、同封のハガキにてどしどしお寄せください。毎回プレゼントもご用意しております。今回も貴重なお便りの中から、少しだけご紹介させていただきました。

（2ページをご覧ください）